

「第3次富山県観光振興戦略プラン」(案)に対する
ご意見の概要及び県の考え方

番号	ご意見の概要	ご意見に対する県の考え方
1	<p>旅行者はネット等を通して、全国の食・自然・温泉の情報を入手できる。そのなかで富山県が旅行先として選ばれるには、若手職員の『妄想力』、『情報のアレンジ力』、『言葉のアレンジ力』が重要ではないか。まずは、県が主導し、県・市町村の若手職員の育成・連携を行ってはどうか。</p>	<p>需要喚起・誘客促進のデジタルシフトを進めることとしており、具体的な施策の実施において、いただいたご意見を踏まえ、若手職員と連携し、その発想力を活かしてまいります。具体的な取組として、令和4年度は、データサイエンスを活用したビジネス客向けの観光プランや体験コンテンツの造成等を推進していくにあたり、県・市町村の若手職員を含めた担当者のデジタル活用のスキルアップを図ることとしております。</p> <p>また、若手職員の育成については、観光塾において市町村職員も含め、地域の人材として受講・育成しており、引き続き、時代のニーズ等を踏まえたカリキュラムの提案等につとめてまいります。</p>
2	<p>富山県成長戦略会議で議論された内容が盛り込まれており、新たな時代の観光への対応をはじめとした目指したい姿が全体としてよくまとまっていると感じた。</p> <p>また、重要目標(KGI)を観光消費額としており、その達成のために、評価指標として定量評価だけでなく、定性調査や補完調査を実施し、評価・検証するとされているところも素晴らしいと感じており、そのとおり施策の進捗状況を数値化して県民に見える形にさせていただきたい。</p>	<p>施策の方向性や数値目標の考え方について評価いただき、ありがとうございます。</p> <p>県が取り組む幸せ人口拡大に向け、様々な側面から指標を設定し、客観的な数値により評価・検証することで、県民の皆さんに分かりやすい形で施策を進めてまいりたいと考えています。</p>
3	<p>県内自治体それぞれで観光施策が実施されているが、観光地の地域交通(2次交通)の利便性の向上を目指すための新たな交通・観光サービスMaaSの推進や、客観的なデータ(数値)分析に基づくマーケティングの実践など、県がよりイニシアチブを発揮することで効果的に事業展開できると思われる分野については、積極的に主導しながら県内自治体と連携を深めて施策を推進してほしい。</p>	<p>意欲的な市町村や交通事業者等と連携して、MaaSの推進など、公共交通サービスの利便性向上に努めてまいります。</p> <p>また、マーケティングに基づく提供可能なデータについても、市町村等と共有できるよう努めてまいりたいと考えています。</p>

4	<p>「データ」の集積、分析、活用、データサイエンスといった内容が書かれているが、有用なデータは、県庁内部にとどまらず、事業者、自治体等にわかりやすい形で共有してほしい。</p>	<p>提供可能なデータ等について、市町村等と共有できるよう努めてまいりたいと考えています。</p>
5	<p>「ウェルビーイング」の概念が理解しにくいと感じた。</p> <p>県民自身が地元の幸せを見つけ、発信することを目指すということであれば、県民が「ウェルビーイング」のような概念を意識できるような取組を期待する。</p>	<p>一人一人の主観的な幸福度を重視するウェルビーイングに対する理解を深めていただくため、今月開催する富山県成長戦略カンファレンス「しあわせる。富山」において、ウェルビーイングについてわかりやすく発信することとしています。</p> <p>また、令和4年度には、ウェルビーイングの向上に向けて、本県のウェルビーイングを測る指標を設定するなど普及啓発に努めることとしています。</p> <p>観光においても、県民の皆さんにウェルビーイングを意識していただけるよう取組を推進してまいります。</p>